

Ⅱ 特別シリーズⅡ

科学技術
振興機構

『さくらサイエンスプラン』友情と感激

第111回

※現在、さくらサイエンスプランは新型コロナウイルスの感染防止のため、今年度のプログラムの実施を延期しています。

立命館大学の活動報告



伊藤隆基
(立命館大学
理工学部教授)

日印両国の視点から
環境問題・科学技術を考える
そこからあたらしい発見が！

令和元年7月7日から13日にかけて、インドのニッテ大学から10名の学部生を受け入れました。立命館大学が、ニッテ大学を対象とした、日本での環境問題や科学技術について学ぶプログラムを実施してから今年度で5年目となります。今回は「環境、水、ゴミ（廃棄物）問題」の分野に焦点を当てて、関連する専門分野を研究対象とする立命館大学教員による講義や研究室見学、浄水場やゴミ焼却施設の見学、および学生との交流を行いました。日本の最新の研究や技術に直接触れ、また教員や見学施設の方々との意見交換や学生との交流を通して、ニッテ大学の学生には日本の技術はもとより、おもてなし文化も同時に理解していただいたと確信しています。

講義では、「サステイナブルな水循環システム構築」「循環型社会の評価手法とシステムデザイン」を研究テーマとする2名の教員から研究内容、研究室、研究施設について紹介しました。研究施設内に整備されている浄化槽はインドではめったに見られるものではないので、多くのニッテ大学の学生が興味を持ち、積極的に質問をして理解を深めています。

また、施設見学では日本の科学技術に直接触れていただくべく、吉川浄水場（滋賀県野洲市）ならびに草津市立クリーンセンターを訪ねました。ご担当者様より各施設の説明に加え、琵琶湖の水がどのような工程を経て家庭に届き琵琶湖に戻るのか、また埋め立て場までの廃棄物の流れを丁寧にご説明いただきました。環境を意識した日本の科学技術にニッテ大学の学生は興味津々のようでした。またニッテ大学の引率教員の研究分野とマッ

プログラム	1日目	関西国際空港に到着 夕方にびわこ・くさつキャンパスに到着
	2日目	オープニングセレモニー、オリエンテーション 立命館の学生とキャンパスツアー 日本語講座・日本文化体験、歓迎会
	3日目	研究室訪問、草津市クリーンセンター見学 立命館の学生との交流
	4日目	琵琶湖湖畔の浄水場見学 琵琶湖の水質管理・環境保全に関するフィールドワーク 琵琶湖博物館訪問
	5日目	フィールドワーク「日印のインフラ環境と科学技術」 (二条城→嵐山→鉄道博物館)
	6日目	研究室訪問、調査・成果のまとめ 立命館の学生と成果報告会、お別れの会
	7日目	関西国際空港から出国

チングしていたので、専門的な質問も飛び交っていました。

そして、両大学の学生が交流し、親睦をより深めるために、立命館大学生が習字体験、みたらし団子作りを実施しました。同年代の学生が主体的に運営したことによって、会話も弾み、良い交流の機会となりました。

日本の科学技術だけでなく、文化や歴史に触れることで、日本への興味・関心を高め、今後の研究交流・留学の推進を図るべく日本文化体験（着物の着付け）を行いました。笑顔で写真を撮り合う姿が印象的で、意外におもちゃの刀や忍着関連グッズは好評でした。

プログラムの最終日には、成果報告会を実施し、滞在中に学んだ最先端の科学技術・日本文化に関するプレゼンテーションを行いました。学生からは、「このプログラムは自身の技術的知識を向上させ、日本の文化を理解する機会を与えてくれて素晴らしい経験ができた」



椰子と胡椒の畑。オーナー自ら椰子のおもてなし



吉川浄水場訪問。ニッテ大学学生は興味津々



小学校訪問。子どもたちからの大歓迎



みたらし団子作りにチャレンジ

「人生を変えるような素晴らしいプログラムだった」「また必ず日本に戻ってきたいと思う」といったコメントを確認することができました。

また、後日ニッテ大学からは、「立命館大学の皆さんから受けたおもてなしはたいへん素晴らしかった」とコメントを頂き、担当教職員と学生にはたいへん励みになりました。

立命館大学では、ニッテ大学からの学生受入れと並行して、立命館大学の学生をニッテ大学に派遣するプログラムも実施しています。今年度は2月(令和2年)に14名の学生がニッテ大学を訪問し、10日間の派遣プログラム

を行ってきました。ニッテ大学受入れプログラムの同様にインドの環境維持に関する技術の理解や人との交流を通して、日本とは文化が異なるインドの理解を深めてきました。今回の課題はインドの地方地域でのゴミ処理問題に焦点をあて、家庭、公共、産業などで出てくるゴミ処理について学びました。

家庭訪問および農家訪問では、家や敷地の隅々まで紹介していただき、普通には見ることができない場所も含め、わくわく気分で見学させてもらいました。また、小学校の給食施設とそこでの廃棄物処理についても学び、訪問した小学生の昼食の様子まで見せていただきました。

ニッテ大学の受入れおよび派遣プログラムを通して、日印の学生、教職員間の連絡や交流は継続されています。また、今後もさらなる発展し、両校の絆がますます深まることを期待しています。

みるもの・聞くもの・ほとんどが立命館大学の学生にとっては初めの経験で、いろいろな意見があり、また意外性を実感することで学びを深めました。また、インドのおもてなしは、日本風のものとは異なり派手さはありませんが、日本と同様に懇切丁寧でクオリティの高いものであると感じることができました。